

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
龍馬デザイン・ビューティ専門学校		平成4年2月17日		中西 康廣		〒780-0935 高知県高知市旭町2-22-58 (電話) 088-875-0099			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人龍馬学園		平成1年3月23日		佐竹 新市		〒780-0056 高知県高知市北本町1-12-6 (電話) 088-825-0077			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士		
工業	工業関係専門課程		建築インテリア学科		平成25年文部科学省告示第3号		—		
学科の目的	建築設計や施工管理者として活躍できる技能や専門知識を身につける。建築に関する法規や一般構造の理解、家具デザインの基礎やデザイナーの資質などについて総合的に学ぶ。単に建築意匠や空間の装飾にとどまらず、総合的な演出やライフスタイルそのものを提案できる設計力、施工現場にて作り上げていく管理能力などを兼ね備えた人材の育成を目指す。								
認定年月日	平成26年 3月 31日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	2170時間	434時間		496時間	1240時間	0時間	0時間	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人		61人		0人	5人	12人	17人		
学期制度	■前期:4月1日～7月21日 ■後期:8月28日～3月31日 ■				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 実技課題60点以上 学期末試験60点以上			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月26日～8月23日 ■冬 季:12月24日～1月10日 ■学年末:3月31日				卒業・進級条件	各授業科目に係る出席時数が実授業時間数の10分の9以上かつ各授業科目100点を満点とし60点以上であること			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者を交えた面談及び連絡				課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域イベント等にボランティア参加			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和5年度卒業生) 建設会社、工務店 等				主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 無			
	■就職指導内容 全体では各学期ごとに研修を実施。担任は随時学生の動向を把握しながら個別面接指導を行っている。					■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)			
	■卒業生数 31 人					資格・検定名 種別 受験者数 合格者数			
	■就職希望者数 18 人					インテリア設計士2級 ③ 29人 13人			
	■就職者数 : 17 人					建築CAD検定3級 ③ 30人 12人			
■就職率 : 94.4 %									
■卒業者に占める就職者の割合 : 54.8 %									
■その他 ・進学者数 :13人 ・進路決定 :0人 ・就職辞退 :0人 ・未内定者 :1人									
(令和 5 年度卒業生に関する令和6年5月1日 時点の情報)									
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 令和5年4月1日時点において、在学者60名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者56名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更				■中退率 6.6 %				
	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ◆龍馬学園奨学金、資格・検定等特待生授業料免除、日本支援機構奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)								
当該学科のホームページURL	http://www.rvoma.ac.jp/cid/livingspace.htm								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科では、建築やインテリアに関する幅広い知識と技術を持った人材を養成することを教育目的としている。建築関係団体及び建設業の役職者等を教育課程編成委員会委員に選任し、建築・インテリア業界の専門性の動向、新たな技術動向に関する知識・技術について、関係者からの意見等を十分に反映し、より実践的な授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

別添の「龍馬デザイン・ビューティ専門学校組織規定」のとおり、教育課程編成委員会(以下「委員会」という)は、校長直轄の組織として設置しており、カリキュラム改善に対する意見を企業等の役職員及び有識者から聴取し、これを基に校長以下、建築インテリア学科の担当でカリキュラムの改善について検討し、次年度に向け改善を図っていくこととしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中西 康廣	校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	
大久保 光洋	副校長兼事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	
岩神 義宏	教務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	
石元 優	教員	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	
北添 幸誠	(公社)高知県建築士会 会員	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	①
今西 由右子	丸岡建築事務所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年間)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催 前期8月、後期2月

(開催日時)

第1回 令和5年8月3日(木) 11:00～12:00

第2回 令和6年2月27日(火) 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見交換で出た事案の中で、短期的・中期的・長期的に取り組むめそうな内容に精査し、可能なものから実際にカリキュラムに反映させた後、学生の意見もアンケート等で集約し改善を加えて行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

最近の技術動向を踏まえ、現場で必要な知識・技術を具体的に身に付けさせるため、関連団体や企業へのヒアリング等を通じて重要項目や課題を抽出し、その結果にもとづいた解決・改善内容を実習や演習内容に反映できるよう関連団体や企業と連携しながら計画を進める。また実習・演習等の実施後には関連団体や企業及び学生からの報告を元に、その効果を検証しながら改善を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携先企業等の担当者と学校担当者の間で、授業形態やシラバスの確認を行い、また評価項目に関しては、その内容とレベルを協議し確認している。実習・演習等の期間中は、どのような指導を学生が受け、どのように向上したのかを企業等の担当者から適宜、具体的な報告を受けている。また、その実効性について企業側と学校側とで具体的な検討ができるよう体制を敷いている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザイン実習Ⅰ	公共空間における建築計画や環境工学について、建築設計課題を通して追及する。今回は木質系建築の設計を課題とし、敷地調査～計画～設計～プレゼンテーションまで一連の実務業務を取り組み、講師と教員が協議しA～Dの4段階評価を行う。	風憬社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学則施行細則の龍馬デザイン・ビューティ専門学校教職員研修規定により、当校が実施する研修は、①新任者研修、②管理職研修、③養成研修に分けて行われており、県内外の各科に関わる業界関係団体や、教育関係団体が主催する研修などに積極的に参加させている。研修等の参加に当たっては、校長又は部門の長が本人のキャリアや適性、意欲等を考慮し、また学校全体の状況等も踏まえ、戦略的に研修を計画している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日 高知県建築士会青年部会主催サマーセミナー に参加

高知県立美術館などの設計で有名な建築家・山本長水氏の講演会を通して、公共建築物等の設計手法を学ぶ。今後の設計課題の指導で役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

■日時: 令和5年12月25日(月)13:00～17:00

■講師: 中野 在人 様(一般社団法人REIONE所属)

■テーマ: 「人が育つ」ファシリテーション技術

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

業界団体を招いて業界研究会・教育シンポジウムへの参加

②指導力の修得・向上のための研修等

令和6年8月に教員研修を予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表しているこ

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育の質の向上につながる学校運営や教育活動の改善に関しては、短期的な計画を立て迅速に対応し、学生支援、教育環境の改善など学生や保護者に対する満足度の向上につながる改善及び社会や地域への貢献に関しては、継続的な取り組みができるよう体制を整える。地域のニーズに対応する学科の改編や新設及び財務の安定化に関しては、中長期的な計画に基づき積極的な姿勢で臨む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	【抜粋(別紙参照)】1. 学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。(学生便覧等) 2. 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。(教職員手帳等) 3. 学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。(HP、パンフレット、募集要項等)
(2) 学校運営	【抜粋(別紙参照)】1. 組織機能図があるか。 2. 学校の年間スケジュールはあるか。 3. 分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか。
(3) 教育活動	【抜粋(別紙参照)】1. 育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。 2. カリキュラム作成のために複数のメンバーによりカリキュラムの作成が行われているか。(カリキュラム作成委員会等) 3. カリキュラム作成メンバーの中に高校生の現状、社会ニーズを反映させるために複数の内部職員をいれているか。
(4) 学修成果	【抜粋(別紙参照)】1. 学生の就職に関する目標を設定したか。 2. 学生の就職に関する目標に対して教職員に共有されているか。 3. 学生の就職活動に関する記録がなされているか。
(5) 学生支援	【抜粋(別紙参照)】1. 入学予定者に対し学習指導・支援等は行われているか。 2. 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。 3. 担任による面談が定期的に行われているか。
(6) 教育環境	【抜粋(別紙参照)】1. 図書室・図書コーナー等があるか。 2. 学生が利用できる参考図書、関連図書は備えられているか。 3. 就職支援を行う指定された場所があるか。
(7) 学生の受入れ募集	【抜粋(別紙参照)】1. 学校案内等には育成人材像が明示されているか。 2. 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか。 3. 学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。
(8) 財務	【抜粋(別紙参照)】1. 年度予算、中期計画が策定されているか。 2. 予算は計画に従って妥当に執行されているか定期的に確認しているか。 3. 会計監査(内部・外部)体制のルールが明確化されているか。
(9) 法令等の遵守	【抜粋(別紙参照)】1. 定期的に防災訓練を実施しているか。 2. 個人情報保護規程が文書化されているか。 3. ハラスメントに関する規定が文書化されているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	【抜粋(別紙参照)】1. 目標・計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を実施しているか。 2. 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等へ加盟をしているか。 3. 上記において定期的な会合に参加しているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価結果をもとに、学校運営及び各学科に関わる意見を様々な視点から広く聴取し、早期に改善を図るべき事項と中長期に対処すべき事項を区別した上で、当校の教育の質を維持・向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立て授業シラバスの見直しや校務分掌で実行していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
菅井 智恵	保護者	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	PTA
元吉 太郎	旭二丁目町内会	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	地域住民
高橋 健太	株式会社 真面目	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	地元企業関係者
山下 智徳	建築生活空間研究企画室 代表 建築関係	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	業界関係者
高橋 和之	グラフィスデザイン事務所 代表 グラフィックデザイン関係	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	卒業生
國澤裕貴	高知県自動車整備振興会理事	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	地元企業関係者
山本 晋爾	株式会社RT 代表取締役社長	令和4年8月1日～令和6年7月31日(2年間)	地元企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(学校関係者評価結果の活用状況)

自己点検・評価結果をもとに、学校運営及び各学科に関わる意見を様々な視点から広く聴取し、早期に改善を図るべき事項と中長期に対処すべき事項を区別した上で、当校の教育の質を維持・向上させるために、具体的な学習環境や教育体制の整備計画を立て授業シラバスの見直しや校務分掌で実行していく。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.ryoma.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園概要、学校紹介、校訓(校長挨拶)
(2)各学科等の教育	学科紹介・概要(目指す仕事・目標資格・年間スケジュール等)
(3)教職員	教員名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職指導・就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ、施設・設備
(6)学生の生活支援	龍馬学園奨学金、さくら奨学金、学園指定・推薦ワンルームマンション
(7)学生納付金・修学支援	入学金・学費、学費サポート(特待生制度・各種奨学金制度)
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己点検評価結果・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.ryoma.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業関係専門課程 建築インテリア学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			設計製図Ⅰ	図面の持つ役割や機能を理解し、設計意図を的確に表現する技能を学ぶ。建築の設計に係わる知識や設計手順を学び、建築設計計画を習得する。	1通	217				○	○		○		
○			CAD実習Ⅰ	コンピュータでの設計業務が行えるよう設計支援ソフト(CAD)の基本的操作を習得する。CADソフト使って木造住宅の設計・製図を学ぶ。	1通	124				○	○		○		
○			住居学	人間生活の基礎である住まいについてその歴史、現状、暮らしと住まいのあり方、環境等について概説し、住宅計画と設計の基礎知識を学ぶ。	1通	62		○			○			○	
○			インテリアコーディネート	インテリア計画からプレゼンテーションまでを含めて立体的にトータルなモノ作りを理解し問題意識を持って、実践的なインテリアプランを作り上げ、演出していく。	1通	93			○		○			○	
○			モデリング	建築模型制作の意味を理解し、模型を制作しながら建築の構造・仕上げを学ぶ。模型制作に必要な基礎的な知識を学び、各計画別に模型を完成させていく。	1通	62				○	○			○	
○			パースペクティブ	遠近法、消点法等を学び平面上に立体感のある空間を表現する方法を学ぶ。平面図、立面図、断面図、展開図等を合成し、立体的な空間に変換する手法を学ぶ。	1通	62				○	○		○		
○			建築概論	建築法規、構造力学の基礎的学習を行い、二年次の講座に備える。	1通	31		○			○			○	
○			施工実務Ⅰ	施工現場における基礎知識をはじめ、建築空間に合致した材料選定のために特性、品質、形状、寸法などの知識を習得する。	1通	62		○			○	○		○	
○			ベーシックデザイン	デザインに必要なツールを駆使する技能を習得し、第三者に伝える能力、表現力を身につける。	1通	62				○	○			○	
○			デザイン実習Ⅰ	人間工学、人体寸法などの方面から設計へアプローチを試み、空間デザインの提案を行う。	1通	62				○	○		○		○
○			デザイン研究	デザイナー自身や作品の設計意図を研究。また、デザイナーズ住宅やデザイナーズチェアの模型作製を通して、デザインを迫及する。	1通	62			○		○		○		

○		色彩設計	色彩の基礎から学習し、建築インテリアに応用する知識をつける。「適色適所」を、専門分野で駆使できるように、カラースキルを身につける。	1通	62		○			○			○	
○		ビジネスPC実習	Word、Excelの基本的操作を学び、実社会で役立つ実務能力を養う。	1通	62				○	○			○	
○		修了制作	一年間学んだ技術・知識の集大成。課題テーマに沿った調査、設計、模型の制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。	1通	62			○		○		○		
○		設計製図Ⅱ	設計製図Ⅰに引き続き、より実践的な建築製図、建築設計を学ぶ。公共性が高い施設の設計を通し都市と建築・環境と建築・町並みと建築などを考えプランニングする力を養う。	2通	217				○	○		○		
○		CAD実習Ⅱ	CAD実習Ⅰに引き続き、二次元CAD製図の速度・正確さなど技術的向上を目指す。より実践的な作図技術を習得する。	2通	93				○	○		○		
○		建築計画	建築の変遷とそれらを取りまく環境を理解する。建築の基本を自然環境、社会環境から学び建築計画の理念や方法を学ぶ。	2通	31		○			○			○	
○		建築設備	衛生・空調設備を中心に、設計及び計画上必要な基礎知識について実践を通して学ぶ。	2通	31			○		○			○	
○		構造力学	建築物の安全性を考える上で重要な部材に生ずる力を解析する能力を養う。	2通	31		○			○			○	
○		一般構造	建築構造（形・力学）の初等領域について学ぶ。構造学と形態の関わりやその歴史、建物の骨組みや仕上げの構成を学ぶ。	2通	62			○		○			○	
○		建築施工	現場施工、内外装工事実施の結果の確認等に関し、各建築物の企画等を行ううえで必要とする専門知識を習得する。	2通	31		○			○			○	
○		建築法規	法規、法令・基準、規格について、その理念と運用について理解する。	2通	31		○			○			○	
○		3D-CAD	CGモデリング機能及びレンダリングソフトを使い、モデルを作成。CADによる三次元の立体的表現を通して空間の構成及びプレゼンテーション能力を養う。	2通	93				○	○			○	
○		ビジュアルデザイン	プレゼンボード制作に必要な、人に伝わりやすいデザイン構成力と、それを的確に表現する為の制作技術を学習する。	2通	62				○	○		○		
○		ライティングデザイン	各種照明器具や建築化照明などの理解のほか、照明設計、照度計算について学び、実務で応用できる能力を身につける。	2通	62			○		○			○	

○		施工実務Ⅱ	施工実務Ⅰに引き続き、施工現場における専門知識をはじめ、管理、積算、見積、工事請負契約などについて学ぶ。	2通	31		○			○			○	
○		プレゼンテーション	インテリア計画からプレゼンテーションまでの流れを含めたトータルなモノづくりを理解し問題意識を持って実践的なインテリアプランを創り上げ演出していく。	2通	62				○	○		○		
○		福祉住環境学	住居の内外における物理的環境を学び、その中で暮らす人たちが肉体的にも精神的にも健全で快適に満足して住めるような住居を計画できる知識を学ぶ。	2通	62		○			○			○	
	○	デザイン実習Ⅱ	デザイン実習Ⅰに引き続き、空間デザインに対する応用力、設計力のレベルアップを図る。	2通	62				○	○			○	
	○	色彩演習	色彩設計に引き続き、色彩の計画について総合的な企画、コーディネーションの提案力、表現力、技術力の向上を図る。	2通	62			○		○			○	
	○	建築研究	住空間における建築計画や環境工学について、住宅設計課題を通じて追及する。	2通	62				○	○		○		
	○	インテリア研究	住空間におけるインテリアコーディネートや家具設計について、住宅設計課題を通じて追及する。	2通	62				○	○			○	
○		卒業制作	2年間で培った技術と知識の集大成。研究テーマ、調査、設計、作品制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。	2通	62			○		○		○		
合計			33科目	2170単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各授業科目に係る出席時数が実授業時間数の10分の9以上かつ各授業科目100点を満点とし60点以上であること		1学年の学期区分	前後期
		1学期の授業期間	前期13週 後期24週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。